

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
共通基盤型原子力研究プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：炉心溶融物の粘性及び表面張力同時測定技術の開発 研究代表者（研究機関名）：大石 佑治（大阪大学） 研究期間及び研究費：平成 30 年度～令和 2 年度（3 年計画） 15 百万円</p>					
項目	要 約				
1. 研究の概要	<p>炉心溶融事故の事故進展の解明及び予測の高度化に資するため、炉心溶融物の物性測定を可能とする技術の開発を目指す。高温融体の物性測定において実績のある浮遊法をベースとし、炉心溶融物の中でも物性測定が困難なボライドと (U, Zr)O₂ の物性を測定できる技術を開発することを目的として、以下の項目を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 酸化物試料の粘性及び表面張力評価手法開発 2) 金属系試料の粘性及び表面張力評価手法開発 				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px;">B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス浮遊法をベースとしたアプローチにより、金属の粘性と表面張力を測定する手法の開発がなされたことは評価ができる。 ・一方、実デブリの挙動をシビアアクシデントコードで解析する際には、ウラン化合物の分析は不可避と思われ、酸化物の分析が出来るようにする必要がある。 ・多くの論文を投稿していることは評価ができる。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス浮遊法をベースとしたアプローチにより、金属の粘性と表面張力を測定する手法の開発がなされたことは評価ができる。 ・一方、実デブリの挙動をシビアアクシデントコードで解析する際には、ウラン化合物の分析は不可避と思われ、酸化物の分析が出来るようにする必要がある。 ・多くの論文を投稿していることは評価ができる。 		<p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス浮遊法をベースとしたアプローチにより、金属の粘性と表面張力を測定する手法の開発がなされたことは評価ができる。 ・一方、実デブリの挙動をシビアアクシデントコードで解析する際には、ウラン化合物の分析は不可避と思われ、酸化物の分析が出来るようにする必要がある。 ・多くの論文を投稿していることは評価ができる。 				
	<p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>				